

坂本龍馬は、海軍操練所に続いて海軍塾の開設許可が下りた文久3年(1863)4月27日から約1ヵ月後の5月17日に、姉 乙女へ脱藩後2通目となる手紙を書いています。

此頃は天下無二の軍学者勝麟太郎という大先生に門人となり、この外かはいがられ候て、先(まず)きゃく(客)ぶんのよふなものになり申候。
ちかきうちに八大坂より十里あまりの地にて、兵庫という所にて、おきに海軍ををしへ候所をこしらへ、又四十間、五十間もある船をこしらへ、でしども二も四五百人も諸方よりあつまり候事、私初栄太郎(高松太郎)なども其海軍所に稽古学問いたし、時々船乗のけいこもいたし、けいこ船の蒸気船をもつて近々のうち、土佐の方へも参り申候。
そのせつ御目にかかり可申候。(途中省略)
すこしエヘンがをしてひそかにおり申候。達人の見るまなこハおそろしきものとや、つれづれ二もこれあり。猶エヘンエヘン、

かしこ
龍馬

五月十七日
乙大姉御本

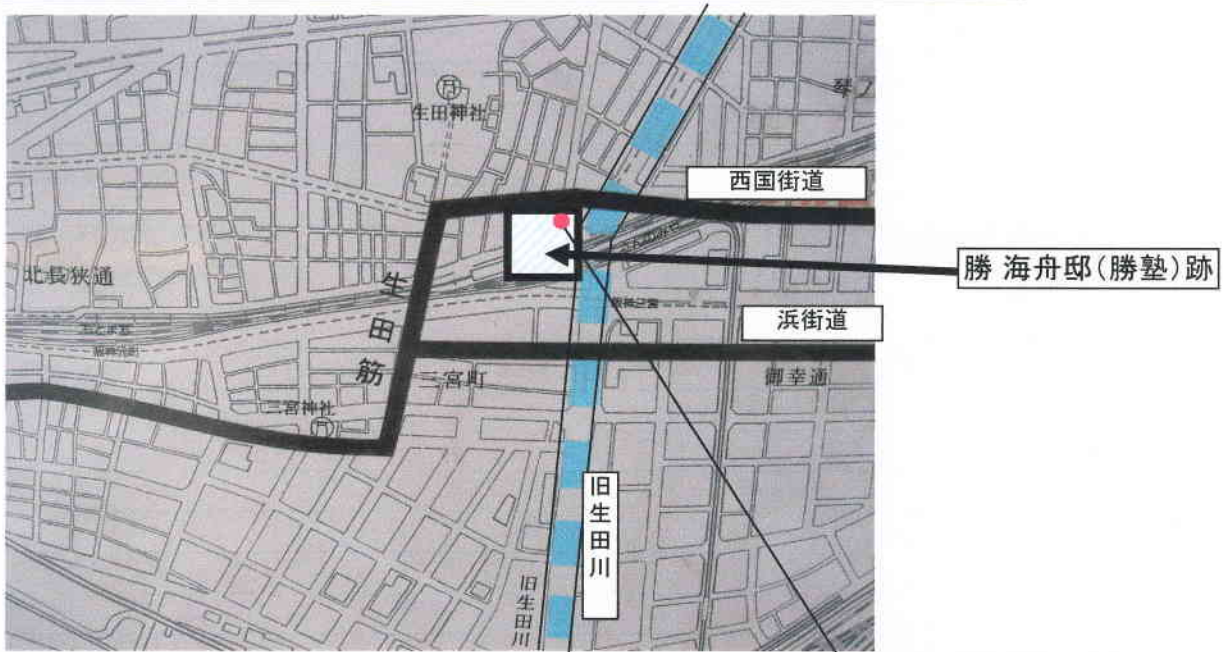
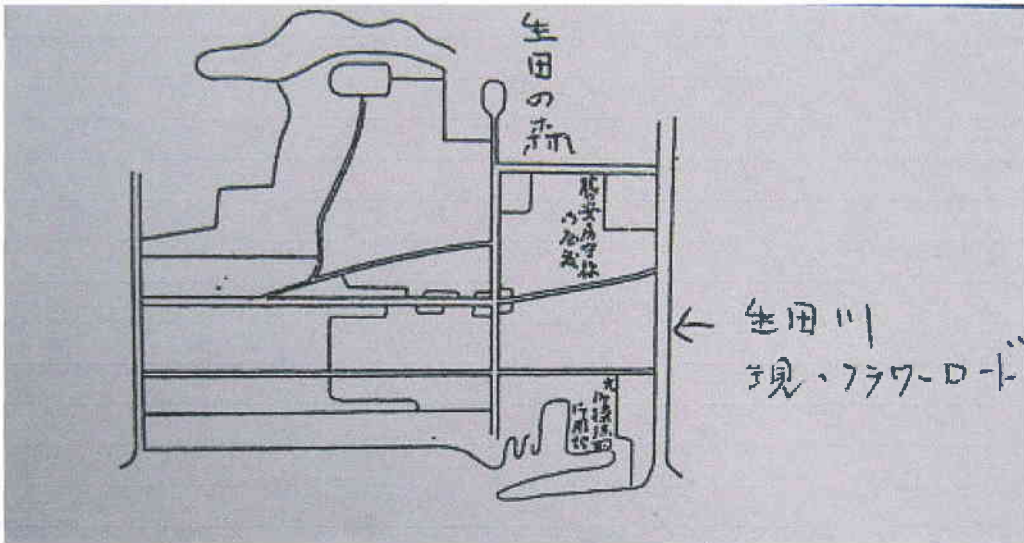


観光丸(ハウステンボス)



坂本龍馬像(長崎市)

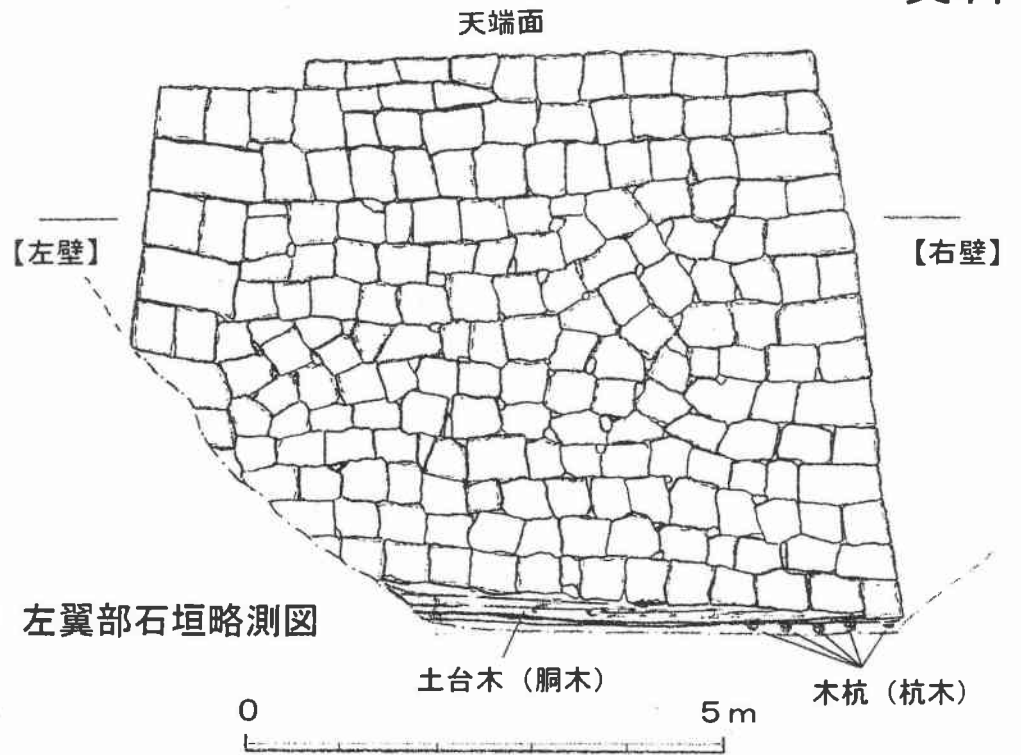
勝海舟邸は絵図によりますと、海軍操練所から見ると山手側「生田の森」方面にありました。ちょうど西国街道と生田川が交差しているところから、南西方面にありました。広大な敷地であった事が窺えます。現在の地図とあわせて考えて見ますと、下の図のようになります



三宮駅前にある碑

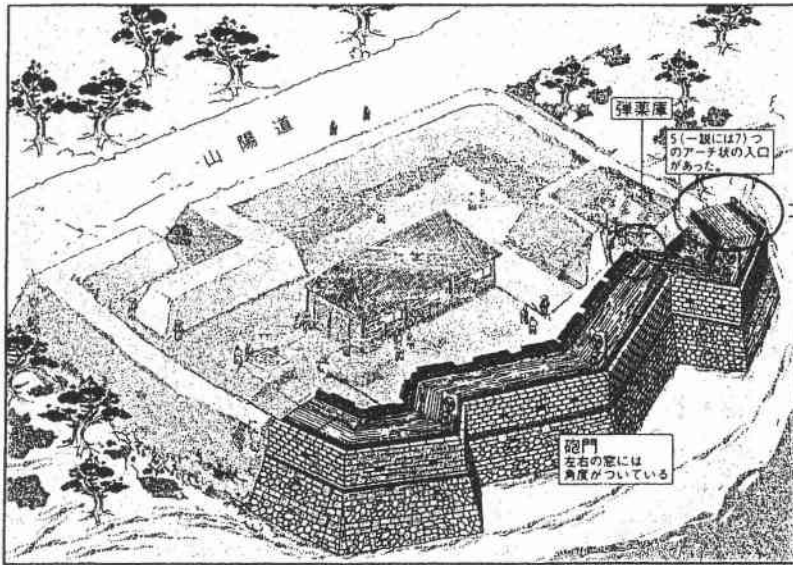


北東角にあたる勝海舟邸(勝塾)跡



背面石垣（出角・築石部）左翼部石垣略測図

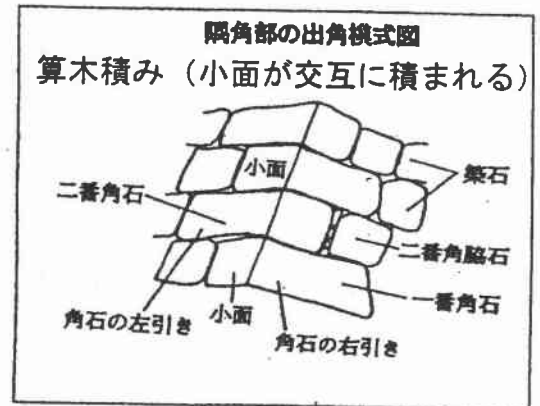
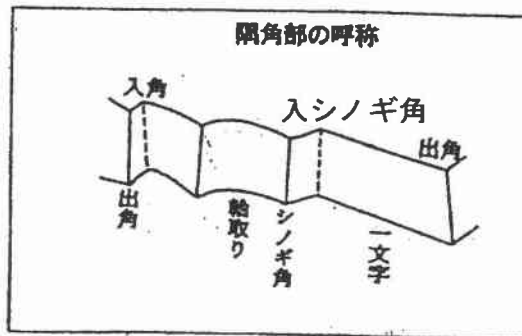
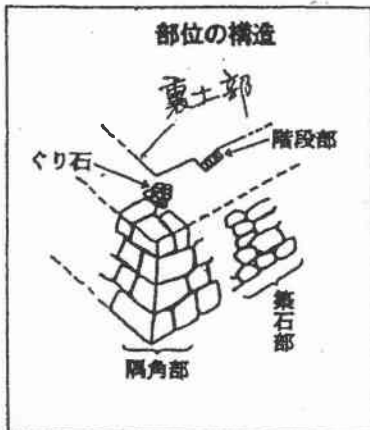
【参考資料】



※附属施設については調査成果では全く不明

舞子砲台跡推定復元図

「発掘舞子砲台」『歴史群像』No.66 2004 学習研究社より



【参考資料】石垣の構造・呼称など